

生命科学研究所生理科学専攻における学生履修モデル4

社会的背景

アルツハイマー病などの精神神経疾患の増大に対する社会的関心の拡大と治療法の開発への期待

研究の関心

最先端の研究手法による脳研究に参加し、精神神経疾患の研究と治療法の開発に貢献したい。

6年制学士課程(基幹領域分野)

〇〇大学医学部卒業
(基礎医学、臨床医学)
卒業論文:なし



生理科学専攻(3年次編入学)

入学後の履修課程

3-5年次

「フレッシュマンコース」コース中の議論を通じて、様々な分野の研究者ネットワークを構築する。

共通専門科目

「生命科学プログレスⅢ・Ⅳ・Ⅴ」、「生命科学実験演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」、「生命科学論文演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」

専攻専門科目

「生理科学特別講義」生理科学分野に関する最先端の研究成果を広く学ぶ。

「システム脳科学Ⅰ・Ⅱ」運動、視覚、言語、社会的認知の脳内メカニズムについて、生理と病態の両面から学ぶ。

6年次 学位論文の作成

論文テーマ「大脳シナプス長期可塑性の運動学習機能への関与の研究」マウス運動野ニューロンのシナプス機能を2光子励起で経時的に観察し、この時の運動課題テストへの影響を調べ、ニューロンの変化と個体の学習の関係を明らかにする新たな道を拓く。

学位の種類:博士(医学)



進路例 脳神経科学の新しい研究技術と知見を身につけた医学研究者として大学病院や先端医療施設に身をおき、その新しい技術の応用・発展による脳機能の解明および脳疾患の新しい診断・治療に貢献する。